厳しい情勢だからこそ、今 足腰の強い農家の育成!!

いま、水田農業の確立や農産物の輸入自由化など農業経営を取り巻く情勢は極めて厳しい状況です。

そこで、村内の農家の皆さんから農業経営に関する考え方や要望をお聞きし、これからの農業振興方策などを見つけだすための「経営改善意向調査」「農業振興のための農家意向調査」の結果がまとまりましたのでご紹介しましょう。調査結果によると、本村の農家は経営の現状を非常に厳しく分析しており、「価格低迷」「水田転作」など稲作農業の抱える問題点をストレートに現しています。

このことから、本村においては今後、転作への積極的な対応、コスト低減等による足腰の強い農家を育成することが緊急の課題です。

農業経営者(293戸)を対象のアンケート結果

調査のあらまし

調査対象
村内で2ha以上耕作している農家…293戸

調査方法
調査員が対象農家に直接配布、回収

回収率
回収数…277戸、回収率…95%

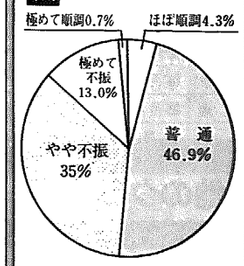
経営改善意向調査

農林業金融公庫資金活用事業アンケート

Q 農業経営の現状について

あなたの農業経営の現状はどうですか？

A



■アンケート回答農家277戸のうち262戸(94.6%)が稲作に依存しており、農業経営の現状が「普通」であると答えた農家が47%とほぼ半数を占めています。「やや不振」「極めて不振」と答えた農家を合わせると、こちらも48%とほぼ半数を占めています。「極めて順調」「ほぼ順調」と答えた農家を合わせてもわずか5%にすぎません。この結果から、農家の厳しい認識がうかがえます。

Q 農業経営上の問題について

現在、あなたの農業経営上の問題となっていることは何ですか？

A

問題なし…… 0.8%
問題あり……99.2%
(内訳…後継者6.1%、労働力3.4%、運転資金1.8%、価格低迷34.1%、資材高騰7.5%、農地不足3.4%、技術不足1.4%、負債過多2.0%、水田転作38.7%、その他1.4%)

■アンケート対象農家のうち、問題点をあげなかった農家は4戸(0.8%)にすぎず、273戸の農家が問題点をあげています。当村が稲作地帯であることを反映し「価格低迷」「水田転作」がそれぞれ3割以上と、稲作農業の抱える問題点がストレートに農家の問題意識に現われています。また、「後継者」についても今後の問題点です。

Q 提供を希望する情報について

あなたの欲しい農業情報は何ですか？

A

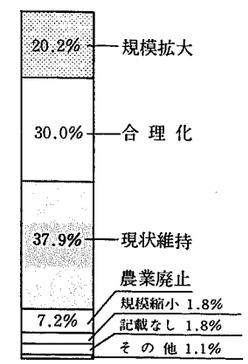
❶経営をとりまく経済、金融、農政の動向……27.7%
❷同じ営農類型農家の経営状況、優良事例……23.7%
❸農産物の生産及び価格動向……17.4%
❹最新の営農技術…14.6%
❺農地の価格……9.2%
❻制度資金の最新金利情報……6.3%
❼その他……1.2%

■「同じ営農類型農家の経営状況、優良事例」「経営をとりまく経済、金融、農政の動向」に関する情報の提供を望む声が高くなっています。稲作農業の先行きが不透明な現在、農家は経済や農政の動き、他の農家の動向に強い関心を持っており、これらに関する情報の提供を望んでいます。又、最新の営農技術の情報提供も望んでいます。

Q 今後の方針について

今後、農業経営をどのようにしたいと考えていますか？

A



■厳しい農業経営の現状認識にもかかわらず、「規模拡大」「作目転換」「経営合理化」と農業経営に前向きの方が半数以上を占めていることは、心強いばかりです。4割弱の方が「現状維持」と答えていますが、「規模縮小」「農業廃止」を考えている方が約1割いることは注目が必要と思われます。

Q 今後の投資予定について

今後5年間に投資予定がありますか、また何にいくらぐらい投資予定ですか？

A 投資予定(5年間)

投資対象	戸数	金額
土地基盤整備	6	6
農地等取得	13	180
家畜導入	3	18
施設導入	7	25
農機具導入	61	200
再建整備	1	30
計	91	459

(百万円)

■今回の調査結果から、農家意識には、それぞれの投資内容に応じて活用する資金がおのずから整理されていることが伺えます。具体的には、多額の資金を要する農地取得に対しては、金利が低く借入期間の長い「農地等取得資金」が望まれる一方、比較的借入額の少ない農機具の導入等に対しては借入手続きが簡単である「農業近代化資金」が農家にとって利用しやすい資金のようです。

農業振興のための農家意向調査

村農政課調査

Q あなたは生産組織化をどう思いますか？

A 各農家の意向をみると、回答数のうち44%が「自己経営」でやって行きたいと答えており、生産組織化には消極的な農家が多い。一方「組織加入済」「今後加入予定」と答えた積極派は35%強あり、全体の約⅓を占めている。

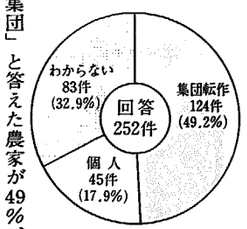
生産組織化	比率(%)
組織加入済	14.0
今後加入予定	21.2
自己経営	44.0
全面委託	10.6
作業委託	6.8
その他	3.4
計	100

Q どんな生産組織をつくったらよいと思いますか？

A 生産組織の形態については、「数戸協同」と答えた農家が約46%と一番多く、次いで「集落ぐるみ」と答えた農家が37%強ある。また、生産組織が機械利用か協業経営によるものかについてみると「機械利用」と答えた農家が116戸(61%)、「協業経営」が74戸(39%)であり、機械利用を主とした生産組織化への意向が強いことがわかります。

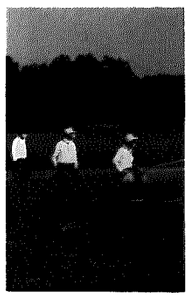
Q 今後の転作についてどのように考えていますか？

A



「集団」と答えた農家が49%、また「わからない」と答えた農家が33%程あり、転作について迷っている状況がうかがわれます。

Q 航空防除についてお聞かせください。



A 防除方法については、「従来どおりと答えた農家が圧倒的に多く、92%を占めており、防除回数についても「従来どおり」と答えた農家が75%を占めました。また、除外区域の地上防除方法については「共同防除」が74%を占め、「個人防除」は25%強となっています。

■防除の実施方法
従来どおり実施…92.2%
日数増… 3.9% その他… 3.9%

■防除回数
従来どおり…75.9% 3回にする…18.4% その他… 5.7%

お手伝いします 明るい農業経営を

新しい農業委員決まる

先月、岩室村農業委員会の委員改選が行われました。

今回は、委員定数十人に対し、候補者数が定員を超えないため、無投票による当選が決まりました。それでは、明日の農業を拓く原動力となる委員のみなさんをご紹介しましょう。(届出順)

堀部代次郎さん(西中・61歳)

堀越徳治さん(白鳥・55歳)

田中吉信さん(夏井・59歳)

松本栄さん(和納3区・57歳)

大関清さん(高橋・55歳)

中村宇一さん(高畑・42歳)

本間一雄さん(樋曽・46歳)

小林辰一さん(橋本・43歳)

中原将さん(和納7区・54歳)

本間兵治さん(石瀬・64歳)

■農業委員会は、選挙で選ばれた右記の10人の委員のほか、村議会から推薦を受けた2名の委員と各農協及び共済組合から推薦を受けた4名の計16名の委員で構成されています。